

北海道開発局は、令和7年7月1日（火）、「心のバリアフリー」を促進するため、北海道運輸局、北星学園大学との共催により、経済学部鈴木克典教授ゼミナール生等を対象として、バリアフリー教室を開催しました。

17名の学生が参加し、座学、疑似体験等を通じ、障害の社会モデルの理解と社会として障害を取り除くことの重要性について気付きを得る機会となりました。

開催概要

講義① 「国全体の方針と北海道運輸局によるバリアフリーの取組について」



北海道運輸局 共生社会推進課
係長 吉田 圭吾

講義② 「車椅子体験」



特定非営利活動法人 手と手
代表理事 浅野目 祥子氏
移動等円滑化評価会議
北海道分科会 委員

※車椅子は北海道運輸局から貸与

講義③ 「北海道開発局が関係するバリアフリーの取組紹介」及び質疑応答



北海道開発局 開発調整課
開発調整推進官 渡部 成人

講評



北星学園大学経済学部
鈴木克典教授
(移動等円滑化評価会議
北海道分科会長)



小さな段差でも障害となることを体験



車椅子の支障にならないよう一部凹凸を無くした点字ブロックの説明



教室棟へのスロープを実際に体験



座学を受講する学生達

座学のほか、車椅子体験では教室棟を出入りしたり、周辺を実際に車椅子で移動することで、普段使用している学校施設のバリアフリーを体験

アンケート抜粋「初めて車椅子を使用しましたが、初めてだったからこそ、少しの段差でも怖く感じたり、視点が低くなることで高いものが取れなかったりと、さまざまな気づきがありました。」「全ての人が心のバリアフリーを意識することが大事だと思いました。」「普段何気なく施設のバリアフリーを見ているが、どういう意味があるのかどういう人が使うのかを意識することで個人の問題ではなく社会の問題として捉えることができるのではないかと思った。」(アンケートから抜粋)など、「心のバリアフリー」への理解が深まった。